

所沢市子ども・子育て会議
(平成27年度第3回)

会 議 録

平成28年2月4日

会議の名称	所沢市子ども・子育て会議（平成27年度第3回）
開催日時	平成28年2月4日（木） 午後2時30分から午後4時30分まで
開催場所	市役所高層棟7階 研修室
出席者の氏名	（会議録別表1）のとおり
欠席者の氏名	草刈 由美子（連合埼玉西部第四地域協議会） リーガン 有香（市民公募） 池田 亜希子（市民公募）
説明者の職・氏名	
議題	議事 (1) 事業計画に掲げる教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の進捗状況、今後の方向性等について (2) 教育・保育の「量の見込み」・「確保の内容」の現況等について (3) 放課後児童健全育成事業の「確保の内容」の変更について (4) 事業計画の進捗の推進方法について (5) その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1： 所沢市子ども・子育て支援事業計画 事業進捗状況確認表 ・資料2： 最新将来推計人口による教育・保育の「量の見込み」の変更 ・資料3： 教育・保育の「確保の内容」の現況 ・資料4： 放課後児童健全育成事業の「確保の内容」の変更 ・資料5： 子ども・子育て支援事業計画の推進方法
担当部課名	本田こども未来部長 及川こども未来部次長 こども政策課：岸課長、山崎主幹、草薨主査、肥沼主任、豊村主任、中島主事 こども支援課：浅見課長、安齊主査 こども福祉課：青木課長、野口主事 青少年課：井上課長、小池副主幹 保育幼稚園課：町田課長、野上主幹、小山副主幹 （事務局）こども未来部こども政策課 電話 04-2998-9415

(会議録別表1)

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

	氏名	出欠席状況	選出母体等
1	近喰 晴子	出席	学校法人 秋草学園 秋草学園短期大学
2	小松 歩	出席	学校法人 白梅学園 白梅学園短期大学
3	広瀬 正幸	出席	埼玉県所沢児童相談所
4	岩淵 賢一	出席	所沢市立小中学校校長会
5	高田 美智子	出席	所沢市民生委員・児童委員連合会
6	須田 昭仁	出席	所沢市PTA連合会
7	小沢 貞泰	出席	所沢市放課後児童対策協議会
8	藤澤 拓也	出席	所沢市私立幼稚園協会
9	喜多濃 定人	出席	埼玉県保育協議会
10	藺田 公斗	出席	地域型保育事業運営団体
11	小松 君恵	出席	地域子育て支援拠点事業運営団体
12	水野 良司	出席	放課後児童健全育成事業運営団体
13	森田 純子	出席	所沢商工会議所
14	渡辺 良雄	出席	所沢地区労働組合協議会
15	草刈 由美子	欠席	連合埼玉西部第四地域協議会
16	リーガン 有香	欠席	市民公募
17	高橋 航太郎	出席	市民公募
18	西村 克男	出席	市民公募
19	池田 亜希子	欠席	市民公募
20	笹川 美千代	出席	市民公募

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>～ 開 会 ～</p> <p>■ 会議成立の報告</p> <p>■ 会長挨拶</p> <p>それでは、議事に入る前に、資料の確認と本日の会議の流れを事務局から説明をお願いします。</p> <p>お手元にお配りしております資料の確認をお願いいたします。 （資料の確認）</p> <p>事前の配布資料としまして、</p> <p>会議次第</p> <p>資料 1：所沢市子ども・子育て支援事業計画 事業進捗状況確認表</p> <p>資料 2：最新将来推計人口による教育・保育の「量の見込み」の変更</p> <p>資料 3：教育・保育の「確保の内容」の現況</p> <p>資料 4：放課後児童健全育成事業の「確保の内容」の変更</p> <p>資料 5：子ども・子育て支援事業計画の推進方法</p> <p>なお、追加資料はございません。皆様、お手元におそろいでしょうか。</p> <p>次に、本日の会議の流れでございますが、はじめに、議題 1 として「事業計画に掲げる教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の進捗状況、今後の方向性等について」、議題 2 として「教育・保育の「量の見込み」・「確保の内容」の現況等について」、議題 3 として「放課後児童健全育成事業の「確保の内容」の変更について」、議題 4 として「事業計画の進捗の推進方法について」ご説明を事務局から行い、それぞれの議題について皆様からご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>なお、この会議は、午後 4 時 30 分までを予定しておりますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>■ 傍聴確認</p> <p>■ 傍聴者入場（3名）</p>
<p>会長</p>	<p>本日の流れについては先程事務局からの説明のとおりです。</p> <p>それでは議題 1 の「事業計画に掲げる教育・保育及び地域子ども・</p>

	<p>子育て支援事業の進捗状況、今後の方向性等について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>～事務局より資料1に基づき説明～</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。</p>
委員	<p>資料1の2ページ、No.6 養育支援訪問事業等の課題・改善点等の文章で、「インターネットで「養育支援訪問事業」を検索すると、児童虐待防止を目的としていることが知られて支援を拒否されてしまう」とありますが、具体的にどういうことですか。</p>
事務局	<p>この事業は、国の子ども・子育て支援法の中で定められておりまして、インターネットで、養育支援訪問事業と検索しますと、児童虐待防止のための事業であると表記されておりますことから、支援したいご家庭にこの事業を説明するとき、児童虐待を疑われているのではないかと、支援を拒否されてしまう事案が多く発生しました。支援が必要なご家庭に、支援を受け入れていただくため、この事業をご案内する際には、事業名を「子育てサポート訪問」というやわらかい表現にして、引き続き支援を行っていくものであります。</p>
委員	<p>インターネットで調べないと、この事業は出てこないということですか。</p>
事務局	<p>この事業につきましては、すべての方に利用を促すというのではなく、お子さまの育ちにとって、支援が必要だと市が判断したご家庭に利用を進めるものですので、広報するような事業ではないと考えます。</p>
会長	<p>誤解を招くことがないように、配慮を行ったということですね。では、他にご質問、ご意見等ございましたらお願いします。</p>
委員	<p>質問したいことが2つあります。1つ目は、資料1の1ページ、No.</p>

	<p>1の量の見込みで「2号認定のうち、幼稚園利用希望が強い」とありますが、今までの資料にはこのような記載はありませんでしたが、これはどういうことですか。</p> <p>2つ目は、No. 2の量の見込みと確保の内容の差が大きいのですが、これはなぜですか。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局からの回答は、他の委員からのご質問も含めてからでもよろしいですか。では、他にご質問等ございましたらお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1の1ページのNo. 2のところで、平成28年度は新設園ができて定員が118名増えるとありますが、確保の内容が118名増えていないのはなぜですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>初めにいただきました資料1の1ページNo. 1の量の見込みについてのご質問にお答えします。所沢市子ども・子育て支援事業計画書の81ページをご覧ください。2号認定こどもの中でも、幼稚園利用希望の方と保育園利用希望の方を分類して記載しておりまして、その住み分けをするために、こちらの資料1の中でも、「2号認定のうち幼稚園利用希望が強い」という表現にさせていただきました。</p> <p>したがって、計画書上で2号認定の子どもで幼稚園利用希望の方につきましては、資料1では、1号認定の子どもに含むという形で記載しております。実績値ということになりますと、実際に幼稚園を利用している方が1号認定に含まれますので、1号認定のところに表記しておりますし、実際に保育園や小規模保育事業を実施する施設を利用している方は、2号認定・3号認定のところに表記しております。</p> <p>次に、資料1の1ページNo. 2の確保の内容についてのご質問ですが、一部の保育園の認定こども園への移行に伴い、1号認定が14名発生しますので、その14名分を差し引いた104名増の3,307名となります。</p>
<p>委員</p>	<p>平成27年度の実績値を見ると、保育需要は増加していると思います。その点からすると、課題・改善点等の欄に定員割れのことを記載するよりは、まだ保育需要がある、ということ積極的に記載したほうが良いのではないかと思います。</p>

会長	<p>このことにつきましては、議題2でご説明があると思いますので、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>
会長	<p>他に、ご意見のある方いらっしゃいますか。ないようでしたら、次の議題に移らせていただきます。</p> <p>それでは、議題2「教育・保育の「量の見込み」・「確保の内容」の現況等について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>～事務局より資料2, 3に基づき説明～</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>私の子どもは3号認定に該当します。今のお話を聞いて、どうして私の子どもは、保育園に入れないのだろうという気持ちがぬぐえません。三ヶ島地区に住んでいますが、同じ地区のまわりの子どもたちも入れていません。今のお話では、三ヶ島地区の施設数は充足しているということでしたが、三ヶ島地区といってもこの地図を見れば、範囲は広いです。私の妻もそうですが、都心に通勤することを考えると、同じ三ヶ島地区でも、すごく離れたところに、定員が空いているからといって、そちらに子どもを預けられるかといったら、預けられません。</p> <p>全体で見れば、充足していたり空きがあったりするでしょうが、実際私たちが預けたいと思うようなところに、保育園がありません。認可外だろうが、認可だろうが関係なくて、実際子どもを預けられる場所がありません。現在、育児休業の延長が切れてしまって一時預かりを利用していますが、一時預かりの預かり時間は都心で働く身としては、厳しいです。8時半から17時となっていますが、会社の時間短縮の制度を利用したとしても間に合いません。私たち夫婦はシフト制の勤務なので、なんとか間に合うことが出来ていますが、普通の会社勤めの方だったら、成立しないと思います。本当は、仕事復帰したい</p>

<p>委員</p>	<p>けれど、預けるところが見つからなくて、仕事を辞めてしまうお母さんもいると思います。私たちが、本当に必要としていることとかけ離れていませんか。数字だけ追っかけているだけではないですか。数ではなく、預けられる場所が重要です。</p> <p>先程、お話のあった幼稚園の小規模保育事業も、フルタイムで働いている人間からすると、少し違うと思います。これからも待機児童解消のために動いていただくのは、ありがたいとは思いますが、私たちの求めているものと行政の方がやっていることは、少し違うと感じました。</p> <p>資料3-①平成27年度市内全体の0歳、1・2歳、3～5歳の数字が資料2の3ページの実績値の数字と合わないのはなぜですか。もうひとつは、資料3-②の市内全体の0歳児の410という数字の根拠がよくわかりません。先程資料1では、470くらいの数字だったと思いますが、その数字の根拠をご説明いただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず人口推移の数字についてですが、実績値の数字は、計画上4月1日を想定した数字でございますので、平成25・26・27年の実績値につきましては、4月1日時点の実際の人口数になっております。</p> <p>平成28年以降の推計値につきましては、市で毎年統計をとっております将来人口推計が、1月1日時点のものになっておりますので、ここで3か月分時期の差が生じることとなります。ですので、数字にずれがあるのは、1月1日現在のものと4月1日現在のものの差でございますので、そのようにご理解いただければと思います。</p> <p>もうひとつのご質問の0歳児数が資料1では477、資料3では410となっていることについてですが、まず資料1の平成27年度の実績値は、年度末時点の年間利用者数の見込値を算出しておりまして、資料3-②の0歳児数は、年度当初4月時点の申込件数を集計した数字となっております。</p> <p>ご承知のとおり、0歳児につきましては、年度途中に需要が増えていく傾向にございますので、410と477の差というのは、年度途中の需要の変動が生じたものと考えていただければと思います。計画上の数値には、0歳児特有の年度途中の需要変動を考慮いたしまし</p>

委員	<p>て、年間の平均値を記載しており、最大の受入人数と比較しましても、足りていくような方向で考えております。</p> <p>そういう意味での数字は、実態に合った数字を記載していただければと思います。</p>
会長	<p>これからの資料の中で検討していただけたらと思います。</p>
委員	<p>先程、他の委員のお話で、誤解があるといけませんので、少し説明をさせていただきます。幼稚園が認定こども園への移行や小規模保育事業を実施するのは、待機児童解消のためだけではなく、どちらかといいますと、保育の質を確保しながら新しい教育を提供できないか、という理念に基づいて、手を挙げるといふ施設が全国的に多いと思います。数という問題でいきますと、それほど解消されないかもしれませんが。しかし、例えば1歳や2歳で、保育を見据えた形で教育を提供していただきたいというニーズも、必ず存在する訳で、そのような方に、幅広く手を差し伸べていける行政が、所沢市の目指すところなのではないかと思います。私どもも、そういう思いで、実施するかどうか考えておりますので、一概に数合わせのためと捉えていただかないほうがよろしいのではないかと思います。</p>
会長	<p>多様な選択肢を広げていく、ということですね。その他、ご意見、ご提案等ございませんか。</p>
委員	<p>保育園を造るには、大きなお金がかかる、税金を使う、ということで、こういったデータを基にして、行政で判断していくのだと思いますが、大前提として、地域住民の方のご協力が必要となります。うちもそうですし、他の事業者もそうだと思うのですが、地域住民の方は、大半の方が温かい目で見守ってくれます。しかし、一部の方からは、子どもの声がうるさいとか、PTSDになりそうとか、クレームが入ることもあります。それが事実であれば、事業者は真摯に対応させていただくのですが、中には、まったくの嘘、いやがらせのようなクレームもあります。</p> <p>山梨県の上野原市では、老朽化した2つの保育園を改修することに</p>

	<p>なつたそうです。しかし、利用者の方から、今の園は交通の便が悪いという意見があつて、新しく大通り沿いに200人規模の保育園を開設することになつたのですが、子育て世代ではない方たちに、税金の無駄遣いだと反対されたそうです。実際に裁判も行つているようで、反対派の方たちの言い分としては、古くなつたのであれば、統合して新設するのではなくて、改修で良いのではないか、高齢者社会なのだから、福祉のほうに予算を回してほしい、ということだつたみたいです。そういった考え方の方もたくさんいらっしゃると思います。</p> <p>所沢市の行政の方も、いろいろな想定をされていて、既存の保育園をいかに有効に使うかということを考えていると思います。利用者の方が、ここに行きたいとか、通勤のことを考えるとここが楽だと思ふ気持ちはわかるのですが、こういった待機児童のことが全国的にも問題になっていますので、利用者の方にも、往復20分かかつてしまうけれど家から少し離れた保育園を選ぶ、というように協力していただかないと、なかなか一気に待機児童を解消するというのは難しいのではないかと思います。そういったことを踏まえたうえで、どうしてもこの地区は足りない、ということがわかつてきたら、行政が公立の新しい保育園を造つたり、民間の事業者が大きい園を造つたりということをやつていけば、待機児童解消にもつながると思います。特に所沢地区は、新しいマンションがどんどん建つていて、子どもの数が増える見込みもあるかもしれません。所沢市の都市計画の中で人口を増やしていく、という目標があつた場合、保育園の数を増やせばもしかしたら転居者も増えて、子育てしやすい環境だといろいろな方に思つていただけるのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>どこで折り合いをつけるかということが大変難しいと思います。今後検討していきましょう。他に、ご意見のある方いらっしゃいますか。</p>
<p>委員</p>	<p>駅に子どもを一旦預けて、保育園に送り届けるという事業はどうでしょうか。まだ所沢市では、このような事業はやっていないと思います。保育園利用者のニーズについて私はあまりわかりませんが、駅の近くに新しい保育園を造るのは、なかなか難しい状況にあると思いますので、先程他の委員がおっしゃつていた問題の解決のために、何か別の方法はないのかなと思つました。</p>

事務局	<p>今ご指摘のとおり、駅にお子さんを預けて少し離れた園に送迎するという事業を、埼玉県内で一か所実施した事例を把握しておりますが、遠隔地の園の定員に余裕ができた状況でないと、なかなか実施することができません。近い将来、遠隔地の園に余裕ができた場合には、そのような事業ができるように検討していきたいと思えます。</p>
委員	<p>ステーションサービスは、鶴ヶ島市で先駆的に行われていますが、そういう事業は必要だと思えます。私が運営する保育園は、三ヶ島地区にございますが、市内各地の子どもたちが集まってくれないと定員が埋まらない状況です。三ヶ島地区は、本当に子どもの数が少なくなっていると感じます。私の園は、三ヶ島のはずれにございますので、ステーションサービスのような事業がないと、子どもたちが集まってくれないのでは、と思えます。今困っている子どもたちをすぐ何とかしていかないと、働くことのできない保護者の方もいらっしゃると思うので、スピーディーに対応していく必要があると思えます。</p> <p>幼稚園が行う小規模保育事業は、A型ということですよ。幼稚園が空き教室を使って、小規模保育事業を行うことによって、待機児童の解消につながると思えますし、プロの幼稚園の先生と一緒に待機児童解消に取り組んでいくのは、とても良いことだと思えますので、一人でも多くの子どもたちを受け入れていく体制にしていればと思えます。</p> <p>私の園でも、15時以降は子どもを外で遊ばせるなという近隣住民の方がいらっしゃいます。地域に根差した貢献活動を行っていても、このような意見をいただくこともあります。保育士も頑張っていますが、保育園を造れば造るほど、保育士が足りないという状況になってきます。保育士不足ということも考えていただきたいと思えます。</p>
委員	<p>今、ステーションサービスのお話がありましたけれども、そのほかにも選択肢の一つとして、越谷市などが行っている事業所内保育というものがあります。従業員のお子さん以外に、地域のお子さんも2割程度預かるというもので、夕方まで行っている事業所内保育も少しずつ増えてきております。現在は大企業が多いですけれども、中・小企</p>

	<p>業でも事業所内保育を実施できるような仕組みができて、国からも設備補助が出ております。このような事業所内保育も増えてきているということを知っていただきたいです。</p>
<p>会長</p>	<p>様々なご意見をいただきましてありがとうございます。限られた時間でございますので、次の議題に移りたいと思います。</p> <p>それでは次に、議題3の「放課後児童健全育成事業の「確保の内容」の変更について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>～事務局より資料4に基づき説明～</p>
<p>会長</p>	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>平成26年4月1日と平成27年4月1日の放課後児童クラブの登録児童数を教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>平成26年度は2,405人、平成27年度が2,543人です。</p>
<p>委員</p>	<p>その実績値と確保の内容が、かけ離れているのではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>実際の登録人数は、先程申し上げた通りですが、確保の内容というのは、一人当たり1.65平方メートルを確保した場合の数字になりますことから、比較をすると大幅に確保できていないということがお分かりになると思います。これを目標にしまして、1年間に160人分を確保していきたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>保育園の場合ですと、地区別に量の見込みや確保の内容を算出して、この地区にこういうものを造ろうという流れになっていると思いますが、平成29年度以降は、どこに確保するという数値的な見込みはありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現状で、児童クラブの申込数を見て判断しますと、所沢地区や小手</p>

	<p>指地区が厳しい状況になっております。そのようなことも踏まえながら、優先順位をつけながら考えていきたいと思っております。現在、教育委員会と協議中ですが、今後は学校施設等をうまく活用していきたいと考えております。</p>
委員	<p>法律で定められた1.65平方メートルというのは、どこのことを指すのか教えてください。廊下やトイレ、体育館等いろいろあると思いますが、何の面積なのでしょう。</p>
事務局	<p>児童クラブでいいますと、事務スペース等を除いた子どもたちが生活するスペース「専用区画面積」のことを指します。</p>
委員	<p>校長会を代表して発言させていただきます。放課後児童スペースということで、お話が出ましたけれど、確かに今児童クラブの活動スペースは満杯な状態です。既存の施設の中に、かなり大勢の子どもたちが押し込められています。それを少しずつでも緩和するためには、やはり新たな場所が必要だということです。ただ、他に土地を求めたり新たな施設を造ったりというのは、なかなか太刀打ちできないというところで、先程の学校施設の活用というお話があったのだと思います。</p> <p>そこで、放課後空いている学校となると、中学校は部活動がありますので、小学校ということになります。今後、児童数が減少してくると、今までの施設の中に空き教室が発生しますので、これを利用できるのではないかと模索中です。ただし、使っていないと言いましても、児童が活用している部分もたくさんありまして、設備としていろいろなものがあります。当然、施設改修が必要になってくると思います。エリアを区切って、そこを放課後専用の施設にする等です。そうなれば、例えばトイレが一か所しかなければ増設しなければならない、そのための排水工事もしなければならない、と様々な問題が出てきます。また、学校を完全に閉めてしまうと、管理体制をまた別のものにしなければならない、そういったことで、学校施設を放課後児童対策のスペースとして活用していこうと協議をしているところでありますけれども、まだまだ課題は山積みだというのが現状だと思っております。</p>

委員	<p>学校の活用ということで、おもしろい活用をしている事例があります。若松小学校では、長生クラブ、お年寄りの活動スペースとして活用しているそうです。</p> <p>また、志木市では、学校と図書館と公民館が一体になった施設がございます。昨年視察に行ったのですが、使うエリアを鉄のパイプのようなもので区分けしている施設でした。簡単な施設でそのようなことが可能なのだと思いました。難しく考えないで、アイデア次第で、やり方はいくらでもあるのではないかと思います。</p>
委員	<p>お金をかけなくても出来ることがたくさんあると思います。学校の授業時間とは違う放課後の時間だという、子どもたちのイメージを大事にしてあげるような、施設づくりを行っていただきたいと思います。ただ、県に問い合わせても、どんどん学校を活用してくださいというところはまだ少ないようですので、先駆的に所沢市に頑張ってくださいたいと思います。</p>
会長	<p>時間も迫ってまいりましたので、次の議題に移らせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、議題4の「事業計画の進捗の推進方法について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>～事務局より資料5に基づき説明～</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>先程、他の委員からもお話がありましたが、今、保育園も幼稚園も人材難という大きな問題に直面しておりまして、なかなか質を確保することができない状況です。施設を増やせば増やすほど、それだけ人材も必要になってきますし、今働いていらっしゃる方が、どれだけ豊かな環境の中で働けるかということが、人材を確保し続けることにおいて重要なことです。ぜひ市として、人材を確保していただくような施策ですとか、確保した人材の質、教育保育におけるスキル・能力</p>

	<p>を確保できるような取り組みをご検討いただきたいと思います。</p> <p>人口推計で子どもたちの数は、徐々に減っていきませんが、減っていくからといって、質を下げるという訳にはいきませんし、すべての子どもたちに質の高い保育、幸せを提供していくのが、市長さんのご意見だと伺っておりますので、数という視点だけにとらわれないような施策をお願いしたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>その他にご意見ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>なかなか預ける場所がないということについて、非常に悩んでおりました、なぜこういうことが起きるのか考えてみました。バブル期の30年位前、埼玉県の有効求人倍率は東京都と同じ1.25倍とか1.27倍でした。なぜ今、東京都に働きに出ていかれる方が多いか考えてみましたが、現在、東京都の有効求人倍率は、1.84倍です。一極集中になっています。それに対して、埼玉県は、0.94～97倍で、仕事がありません。実は、埼玉県の有効求人倍率は、ワースト3に入っています。つまり、埼玉県にお住いの方は、東京都に行って仕事をする方が多いのです。地元で就職という一つの考え方がありますが、現状としてそれが進められないのであれば、やはり都心に働き出ている方へのケア・支援を手厚くしていただきたいと思います。先程の、ステーションサービスのような事業を早めにご検討いただきたいと思います。</p> <p>それから、幼稚園、保育園の人材不足についてですが、その方たちの離職率が高い理由は何なのだろうと思います。聞いたところによると、給与の問題だということでした。園の経営の部分に非常に問題があって、人材が確保できない、たとえば、幼稚園や保育園が十分な収入を確保できないがために、人材も確保できないのであれば、公的な部分から支援が必要だと感じます。また、より良い人材を確保したいのであれば、それに見合った給与を支払うべきだと思います。</p> <p>私は、園の運営が良いか、悪いかそのようなことを批判している訳ではありません。職員の方々の待遇を考えることによって、人材不足の問題を解決することができるのではないかと思います。もし、そのような改善ができるのであれば、市としては、どのように改善ができるのかご検討いただければと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>今の保育者不足について、給与のベースアップはとてもありがたいことなのですが、そのひとつのテーマとして潜在保育者という問題があります。潜在保育者の方は結構いらっしゃって、民間でもそのような方たちの確保に取り組んでいます。働き方の多様性というのがキーワードだと思います。フルタイムで働いていたけれど、今は家庭に入ってしまった、でも資格はある、経験もある、でもすぐにまたフルタイムで働くというのはきつい、というような方がかなりいらっしゃるということを、長い活動の中で感じました。もっと地域性をもった潜在保育者の掘り起しを行っていただきたいと思います。その後のフォローも大切で、すぐにフルタイムで働いていただく、というのではなくて、多様な働き方から徐々にライフワークとして、働き方を変えながら、生涯働ける仕組み作りも大切だと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>保育の質についても、また保育者の資質、確保の問題についてもこれから検討していかなければいけないところだと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>先程、保育士や幼稚園の先生の確保が難しい、また処遇についてのお話がありましたが、先日、市内の事業者の方々にご協力いただいて、所沢市独自の保育士・栄養士の就職合同説明会を実施しました。保育幼稚園課で広報を行い、所沢市にこれだけの施設・求人がある、というご紹介をしました。その説明会にお越しになった方の中から、すでに何名か就職に結びついたというお話を伺っております。草の根的な取り組みではございますが、これからも人材確保のために市としても頑張っていきたいと思います。</p> <p>給与についてですが、今年度から子ども・子育て支援新制度が始まり、施設には、国が定めた金額での公定価格が給付されることになりました。しかし、国も保育士不足を危惧しておりまして、現在の公定価格では足りないということで、見直しを随時行っていくという状況です。市といたしましても、公定価格以外に市独自の補助金を設定して、処遇改善していきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>議題5「その他」について事務局より説明をお願いいたします。</p>

事務局	<p>先程、議題4でも来年度のスケジュールをご紹介させていただきましたとおり、次回会議は5月下旬頃に開催する予定で日程等の調整を進めてまいります。日にち等が確定次第、なるべく早めに委員の皆様にはご案内申し上げます。</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>計画推進について質問します。PDCAサイクルに沿って点検・評価を行っていくことはわかりました。そして、この会議で取り扱う内容は、計画書の第5章に掲げる事業だとお聞きしましたが、計画書第4章には、教育・保育と地域子ども・子育て支援事業以外の様々な取り組みが盛り込まれています。そちらの取り組みのPDCAのような形での進捗状況の確認は、他の会議で行っているのでしょうか。</p>
委員	<p>今日、私の家で預かっている子どものクラスが学級閉鎖になりました。学校へ行って、朝8時半か9時位に担任教師や校長先生の判断で学級閉鎖と決まると思うのですが、その場合に、学級閉鎖になったクラスの子どもは、放課後児童館へ遊びに行ってもいけないと聞いております。よくわからないのは、学級閉鎖が決まった場合は、子どもを保護者が学校まで迎えに行かなければいけないのか、そして自宅待機しなければいけないのか、ということです。朝、学級閉鎖が決まったとしても、働いていて、親が家にいない家庭もあると思います。そのような場合は、どうすればよいのでしょうか。</p>
委員	<p>校長会代表ということでお答えさせていただきます。小学校中学校は義務教育ですけれども、中学生はひとりで家に帰しても大丈夫だろうということで、授業開始を2時間遅れにしたり、放課後、今日は早退、ということで手紙を持たせたりします。</p> <p>ただ小学生の場合は、家の鍵を持っておらず、親が帰ってこないとなに入れられないという子どももいますので、原則、その日に早退させて家に帰す、ということはありません。翌日学級閉鎖にするか、ということを決めて、そう判断した場合に、本校では手紙を持たせて、全校一斉にメール配信を行って、何年何組は学級閉鎖です、というお</p>

事務局	<p>知らせをしております。ですから、学級閉鎖かどうかは、前日までに決定しており、子どもの安全管理の面でも、一人で登下校させるということはありません。</p> <p>先程のご質問ですけれども、第4章の事業につきましては、体系的に目標として挙げている中に、市で行っている主な取り組み事業ということで、こども未来部以外の所管の取り組み事業も掲載しております。市全体の総合計画にもかかわってくる話になりますので、子ども・子育て会議で取り扱う内容は、子ども・子育て支援に特化したものと考えています。こういった事業につきましては、別途、事務事業評価表というものを作成し、事業の進捗状況を確認しています。こども未来部以外の取り組みが知りたいということであれば、事務事業評価表でご確認いただいて、何かご意見等ございましたら、この会議でご発言いただき、所管課に情報提供していきたいと考えております。第4章の事業につきましては、そのようにご理解いただければと思います。</p>
会長	<p>以上で本日の議事はすべて終了いたしましたので、事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>閉会にあたりまして広瀬副会長よりご挨拶をいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>■ 副会長挨拶</p> <p>以上で、平成27年度第3回の子ども・子育て会議を閉会いたします。</p> <p>～閉会～</p>